

動薬協会発 150 号
平成 30 年 10 月 24 日

公益社団法人日本動物用医薬品協会
会員各位

公益社団法人日本動物用医薬品協会
理事長 福井 邦 顕
(公 印 省 略)

千葉県で採取された野鳥の糞便から低病原性鳥インフルエンザウイルスが検出された事例に伴う防疫対策の再徹底について

平素より協会事業にご理解とご支援を賜り、御礼申し上げます。

さて、標記のことについて、別添のとおり、動物衛生課長通知(30 消安第 3722 号)がありましたので、お知らせします。

30 消安第 3722 号

平成 30 年 10 月 22 日

公益社団法人 日本動物用医薬品協会理事長 殿

農林水産省消費・安全局動物衛生課長

千葉県で採取された野鳥の糞便から低病原性鳥インフルエンザウイルスが検出された事例に伴う防疫対策の再徹底について

日頃より、我が国の家畜衛生の推進に御協力頂き、厚く御礼申し上げます。
このことについて、別添のとおり都道府県家畜衛生主務部長宛て通知いたしましたので、御了知の上、貴職におかれましては、会員各位に周知いただきますよう御協力をお願いします。

都道府県家畜衛生主務部長 殿

農林水産省消費・安全局動物衛生課長

千葉県で採取された野鳥の糞便から低病原性鳥インフルエンザウイルスが検出された事例に伴う防疫対策の再徹底について

高病原性鳥インフルエンザ等の発生予防対策及び発生に備えたまん延防止対策については、「平成 30 年度における高病原性鳥インフルエンザ等の防疫対策の強化について」（平成 30 年 9 月 12 日付け 30 消安第 2974 号農林水産省消費・安全局長通知。以下「強化通知」という。）により、万全を期していただくようお願いしたところです。

本日、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門から、千葉県で採取された野鳥の糞便から、低病原性鳥インフルエンザウイルス（H7 亜型）が検出された旨連絡がありました。

今般の事例は、我が国で今季初めて本病ウイルスが確認されたものであり、また、韓国において、別添のとおり、野鳥の糞便から低病原性鳥インフルエンザウイルス（H5 亜型）が検出されていることを踏まえれば、我が国の家きん飼養農場（以下「農場」という。）への本病ウイルスの侵入リスクが高まっていると考えられます。

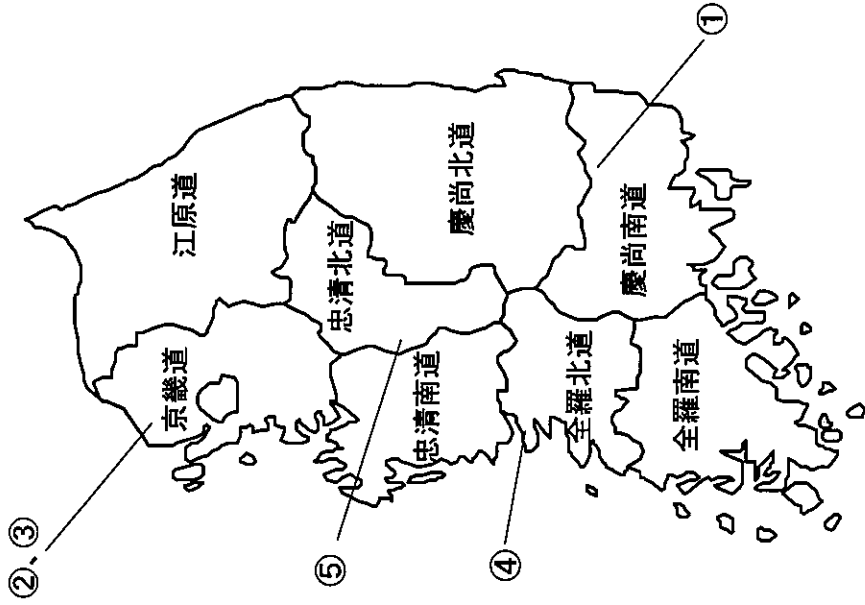
つきましては、農場をはじめとする畜産関係者に対し、このことについて、貴都道府県ウェブサイトへの掲載や電子メール等の手段を用いて、積極的に情報提供するとともに、強化通知に基づく農場及び家きん舎への本病ウイルスの侵入防止対策並びに飼養家きんの異状の早期発見・通報について、再度、徹底をお願いします。

また、農場において本病が発生した場合に、迅速かつ円滑な初動対応が講じられるよう、改めて、必要な人員の確保及び緊急連絡先の確認並びに必要な防疫資材の備蓄状況及び調達先を確認いただくとともに、防疫措置従事者の感染防止・健康管理に対応するため、公衆衛生部局との連携体制についても確認いただきますようお願いします。

なお、韓国における本病の発生状況を含む、本病に関する最新の情報については、当省のウェブサイト（<http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/>）にて随時提供しますので、畜産関係者への注意喚起に活用いただきますようお願いします。

韓国における野鳥からの鳥インフルエンザウイルスの分離事例（2018年10月以降）

	場所		由来	採材日	判定日	病原性	亜型
	道	市/郡					
1	慶尚南道	昌寧郡	糞便	10.6	10.10	低	H5N2
2	京畿道	坡州市	糞便	10.11	10.17	低	H5N2
3	京畿道	坡州市	糞便	10.15			H5
4	全羅北道	群山市	糞便	10.8	10.18	低	H5N2
5	忠清北道	清州市	糞便	10.15			H5



(韓国農林畜産食品部プレスリリースをもとに作成)

2018年10月18日現在
農林水産省動物衛生課